

昭和大学新聞

学校法人 昭和大学
 発行人 小口勝司
 電話 (3784) 8000 〒142-8555
 東京都品川区旗の台1の5の8
 1部 50円 毎月1回発行

- ### 11月号の内容
- 1面
 ・東京オリンピック・パラリンピック職員・学生が大会運営に貢献
- 2面
 ・大学院秋季修了式
 ・薬学部卒業式・学位記伝達式
 ・医学部白衣授与式
 ・昭和大学リカレントカレッジ秋期開講式
 ・ヒューマンライツ・トークショー開催
 ・就任のお知らせ
- 3面
 ・学生研修報告
 ・1年生寮生活再開 PCR検査実施後、富士吉田キャンパスへ
- 4面
 ・動物モデルの敗血症死を阻止する新薬開発に成功
 ・小原信講師が老化および老年医学研究助成を受賞
 ・昭和大学リカレントカレッジ活動報告
 ・昭和大学サポート寄付金寄付者氏名

【問合せ先】
 【本紙について：総務課大学広報係】
 03-3784-8059
 press@ofc.showa-u.ac.jp
 【各種募金・寄付について：企画課】
 03-3784-8387
 【学事について：学務課・大学院課、入学支援課】
 03-3784-8022 (旗の台)
 0555-22-4403 (富士吉田)
 045-985-6503 (横浜)
 03-3784-8026 (入学支援課)

東京オリンピック・パラリンピック

職員・学生が大会運営に貢献

57年ぶりに東京で開催された第32回オリンピック競技大会(7月23日〜8月8日)、第16回パラリンピック競技大会(8月24日〜9月5日)に、本学の職員95名と学生16名が、メディカルスタッフ・学生ボランティアとして参加した。
 コロナ禍で運営体制がたびたび変更となる中、メディカルスタッフは競技会場の医務室などでの初期診療にあたり、学生はメディカルスタッフやアシートのサポートをはじめ、給水係や案内係など多岐にわたった活動で大会運営に貢献した。

森田 将

(江東豊洲病院泌尿器科)
 担当会場：有明アリーナ



担当した有明アリーナ会場では、バレーボール(オリンピック)、車いすバスケットボール(パラリンピック)が行われました。有明アリーナは新設された会場で、当初15,000人の観客を取容予定でしたが、残念ながらコロナ禍により無観客試合となりました。しかし、競技時間・競技期間ともに全競技中最長であり、約500人の関係者の医療対応のために昭和大学のコラボレーター医師・看護師56名が参加しました。遅刻や欠勤も皆無で円滑な活動が行えました。

競技期間前は多数のコラボレーターの複雑なシフト調整や研修を行い、組織委員会と様々な調整事項があ

る中で大会延期や無観客決定に伴い決定事項の変更が頻りに生じ、混乱したこともありましたが、また練習会場を含めた7カ所の医務室設置作業も行いました。このような地道な準備期間の作業や、Venue Operation Plan(会場運営計画)に作成当初から関与したこと、またテストイベントや公式練習全てに参加し着実に問題を改善していったことがオリンピック・パラリンピックでの業務内容のより深い理解に繋がっており、会期中のスムーズな運営に役立つと思えます。会期中は受診者合計60名、要搬送者6名で会場から重傷者は出ませんでした。また、濃厚接触者チームが6チーム試合を行いました。幸い会場内での感染事例は発生しませんでした。

オリンピック、パラリンピックを通して30泊のホテル生活になりました。疲労もありましたが、またない経験をさせていただきまし



垂水 庸子
 (昭和大学病院救急診療科)
 担当会場：有明アリーナスポーツパーク



た。皆様のご協力があったからこそ無事に終了できたと思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。その後、2021年5月のテストイベントから本格的に準備を再開しました。当会場は屋外競技であるため、観客及びボランティアの感染予防対策に加えて熱中症対策を重点的に行いました。十分な準備期間がなく不安でしたが、結果的には無観客開催によって大きく救われました。

当会場の観客医療チームは最終的に医師3名・看護師3名という構成になりました。少人数であったこと、またスタッフ一人ひとりの人柄もあり、常に和気あいあいとした楽しい雰囲気であらうと楽しみにしていました。活動することができました。リハール及び競技中の事故により選手・関係者から重傷者が複数発生しただけでなく、会場職員からも2名の重傷者が発生するなど、苦労はありましたが、選手医療チームとの連携により1人の死者も出さず活動を終えることができ安堵して

おります。この場をお借りして関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

コロナ禍での開催となり、委員会からの情報提供が直前になったり、届かないこともあり、「やるべきこと」の想像がつかず、本当に完全に治療ができるか不安を抱えることもありました。実際に始まってみると、選手村での歯科診療は、歯科のコアメンバーの先生を中心に各専門領域に患者を振り分け、お互いに連携しながら治療ができたため、スムーズに行えました。PCR検査の徹底ということに閉じてはもう少し改善点があったかと思いますが、感染対策に関しては、日々情報共有して、改善が必要

なところがある場合は、早急

マイヤース 三恵
 (歯科病院地域連携歯科)
 担当会場：選手村ポリリニック



八木 正晴
 (昭和大学病院救命救急科)
 担当会場：お台場海浜公園

トライアスロン競技の医療を行うためには、水泳・自転車・マラソンが短時間の間に、シームレスに行われるため、コマンドセンターでの状況把握と的確な各医療チームへの指示出しが必要で、このことがテストイベントでわかっていったため、最初から、コマンドセンターで私が全体の把握を行い指揮を取る形とし、各部所(水泳、自転車とマラソン、選手用医務室、観客用医務室)に責任者を配置し、指揮命令系統図を明確にして、コミュニケーションン手段(主に無線)を活用し、医療活動を行いました。まさに災害医療と同じノウハウが必要でした。

トライアスロンでは、雨天となった際に、自転車で4分の間に3名が落車し、医療対応を行わなければなりませんでしたが、現場にいる医師の位置把握と傷病者の情報把握を行い、指揮をすることができました。

トライアスロンの経験を踏

施設名	職種	氏名
昭和大学病院	医師	角田卓也、八木正晴、垂水庸子、佐々木 駿、平井隆仁、吉泉絵理、安井 理、井上達貴
	看護師	中根香織、諸戸安恵、和田麻依子、渡邊恵利、津藤紗織、齊木伸枝、瀨田杏子、遠藤てらの、鈴木蝶子、倉永成未、稲森万莉絵、瀬川由希奈、高橋比呂子、菱崎琴音、西村江未
東病院	看護師	戸田桂子、會田恵子
藤が丘病院	医師	江波戸美緒、佐藤賢忠
	薬剤師	宮本 渚
リハビリ病院	看護師	小林恭代、山上すみれ、井澤瑠里、中川あずさ、橋本黎子、小俣宣子、坂本篤子
	看護師	木下桃世
横浜市北部病院	医師	藤巻良昌、宮地英行、國井 葉、前田昭彦、大下優介、山口正哉、遠藤貴美、江守 永
	薬剤師	高田昂輔、磯崎 遥
江東豊洲病院	看護師	加藤美穂代、加藤知也、山崎綾音、八城こと美、相原奈津美、浅利恭子、鄭 雅玲、小山珠実、下村明穂
	医師	池田尚人、上條由美、眞野英寿、森田 将、小菅正太郎、江口潤一、野村憲弘、佐藤 敦、佃 玄紀、横井健人、年森明子、島村勇人、田邊万葉、大和屋 仁
鳥山病院	看護師	山下孝子、松本貴子、倉富英明、佐々木 睦、野木京香、横内智子、加治屋広美、山内和夏、三島真緒
	看護師	沢田祐子、吉留 涼
歯科病院	歯科医師	佐藤裕二、マイヤース三恵、下村直史、嘉手納末季、馬目瑠子、永井大輝、石川 悟
	歯科衛生士	杉本承子、渡邊友梨、篠崎由季、松田 梢、高澤友里
大学	医師	上條翔太郎
看護専門学校	看護師	柴田雅子

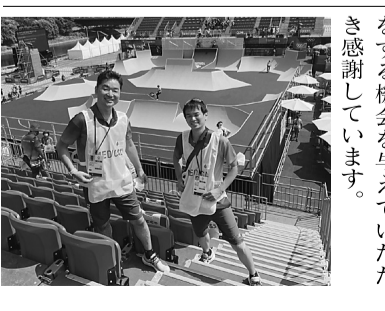
学部	学年	氏名	活動内容
医学部	3年	西谷 秋星	馬術競技のメディカルスタッフサポート
	4年	新井 元	馬術競技のメディカルスタッフサポート
歯学部	3年	山下 りず	馬車公苑の食事配膳
	2年	笠島 真帆	卓球競技のサポート
薬学部	3年	阿部 有佐	聖火リレー (中止)
	4年	野口 友暉	ビーチバレーのアスリートサポート
保健医療学部	3年(看護)	三浦 愛理	パラリンピック競技体験施設周辺での案内・無料タオル配布
	4年(看護)	林 芹菜	ヘルスケア
保健医療学部	3年(看護)	原田美奈穂	体操・新体操、パワーリフティング競技のサポート
	3年(理学)	田邊 綾乃	マラソンロード給水係 (パラリンピック)
保健医療学部	4年(看護)	武藤 優花	閉会式の旗手

(学部学生：ほか1名)

研究科・学年	氏名	活動内容
医学研究科3年	川崎 正義	馬術競技のメディカルスタッフ
歯学研究科3年	山口 真帆	選手村での歯科治療
薬学研究科4年	三刀屋 亮	選手村での薬剤師業務

まえて医療計画を立てることができ、大きな事故もなく、円滑に医療活動を行うことができました。これら全ては、AMS V(選手用医療統括者)の医師が、以前からトライアスロン競技に災害医療のノウハウ(CSCARTT)を取り込んで考えていたため、一緒に計画を立て実行していただくことができたと思っております。

最後に、このような経験



をする機会を与えていただき感謝しています。